

# 9月の県内景況調査結果の概要

## 1. 主要指標の前年同月比D I 値の動き

2年9月のD I 値は8指標中、「取引条件」「雇用人員」の2指標が上昇。「景況」については横這い。残り5指標については下落となった。6月以降窺われた改善傾向に、若干の翳りが見受けられる。

## 2. 県内中小企業の景気の現状

建設業関連では需要が好調であり、家電製品卸売業においてもステイホームや猛暑により季節商品の動きが引き続き堅調であった様子。また経済活動の再開、各種補助金や給付金の効果が一部の業種ではあった模様。

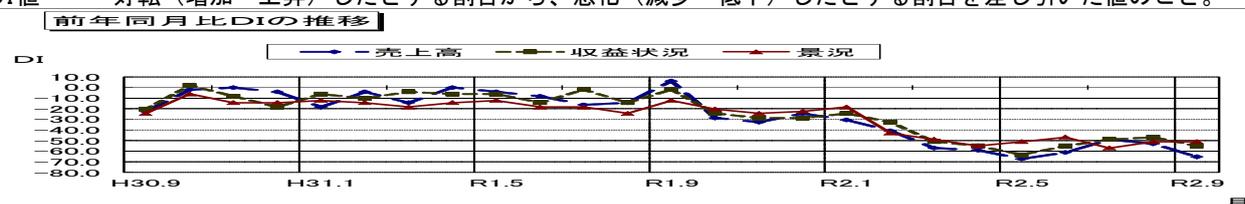
一方、依然として続く原材料高や労働力問題に加えて、長引く新型コロナウイルスの影響により厳しい状況が続いており、先行きを不安視する声が多く業種から寄せられた。

景気は米中貿易摩擦や日韓関係の悪化など緊迫する国際情勢、また我が国をはじめ世界中で出口の見えない新型コロナウイルス問題など国内外経済の下振れリスクが顕著化してきており、一部に持ち直しの動きがあるものの景気の低迷が続いている。県内中小企業においても、更なる景気の悪化に備える必要がある。

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

	R1 9月	10月	11月	12月	R2 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	前月比 増減
景況	-12.2	-20.4	-24.5	-22.4	-18.4	-42.9	-49.0	-55.1	-51.0	-46.9	-57.1	-51.0	-51.0	0.0
売上高	6.1	-28.6	-32.7	-24.5	-30.6	-40.8	-57.1	-59.2	-67.3	-61.2	-49.0	-53.1	-65.3	-12.2
収益状況	-2.0	-24.5	-28.6	-28.6	-24.5	-32.7	-51.0	-55.1	-63.3	-55.1	-49.0	-46.9	-55.1	-8.2
販売価格	12.2	8.2	10.2	10.2	12.2	8.2	2.0	-12.2	-2.0	-2.0	0.0	-6.1	-10.2	-4.1
取引条件	-6.1	-6.1	-8.2	-4.1	-4.1	-14.3	-20.4	-30.6	-26.5	-18.4	-22.4	-18.4	-12.2	6.2
資金繰り	-4.1	-12.2	-12.2	-16.3	-18.4	-26.5	-32.7	-40.8	-40.8	-36.7	-30.6	-20.4	-24.5	-4.1
設備操業度	0.0	-8.2	-8.2	-4.1	-2.0	-8.2	-10.2	-14.3	-14.3	-22.4	-16.3	-12.2	-18.4	-6.2
雇用人員	-2.0	-6.1	-2.1	0.0	-2.0	-6.1	-12.2	-18.4	-8.2	-10.2	-10.2	-10.2	-6.1	4.1

※D I 値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。



## 〔景況関連の報告〕

### 【製造業】

#### <食料品>

1. 味 噌・主要原材料のうち輸入米の長期（3ヵ月）落札価格は前回に比べて100円高であった。国産加工用米は変動なく価格推移している。前年同月比、みその生産量、出荷量とも90%以上で推移している。コロナ禍での売上げ増加に期待したい。
2. 漬 物・コロナウイルスの影響でまだ実習生の入国、帰国、選抜ができない。漬物製造業は製品納入先により好不調が顕著である。農家ではニンジンの種蒔きの準備に追われているが相変わらず人手不足の状態が続いている。

#### <繊維・同製品>

3. 縫 製・新型コロナウイルスの影響と断定できないまでも、業界の景気が冷え込む気配が感じ取られ、回復の兆しは見えない。製造業の中でも繊維工業は景気回復が遅いと言われている中で、不安感が広がっている。景気冷え込みの長期化に備え、引き続き企業体力堅めに注力している。生産性については、不足工程では派遣を投入して生産数量に対処、設備面では順次進めているもののコロナ影響で控え感がまだ残る。9月の生産数量は不変。採用については、昨年と比べると求職者が多い傾向。
4. 縫 製・季節が変わり、寒くなるほど景気も一層悪くなっているのが状況だ。コロナ禍の影響で業績悪化の業種アパレル業：観光業：飲食業等が上げられている。観光業はGoToキャンペーン、飲食業はGoToイート等政府の支援事業で売上回復をする企画があるが、アパレル業にはその様な企画は無いため、今以上厳しい状況になると思われる。既に、今まで安価なサージカルガウンを生産していた企業も10月末で受注がストップしている状況だ。小売店からの受注が少なくなりサージカルガウンで首をつないでいたのが現状だったが、打ち切りになるので、これからが消えていく会社が増えると思っている。既に政府の助成金は使っているので、何か対策を取らないと組合加盟の企業は考えている。

#### <木材・木製品>

5. 製 材・全体的に売上が減少傾向にあり、生産調整を続いている事業所も多い。
6. 木 材・原木丸太の入荷も回復しつつ有り、数量も前年より5%プラス。桧4Mの丸太が少ない為、入荷を期待したい。
7. 木 材・新型コロナウイルス感染症が下火になりつつある現状だが、当分のあいだ不景気気分が抜けきらない。

## <印 刷>

8. 印 刷・9月は休みの日が多く、仕事量も少なく売上の低い月となる。10月～11月に開催される秋のイベント関係で巻き返しをしていかなければならないところだが、コロナ禍では手の施しようもない。しばらくは経費を抑え、固定費を低くして凌いでいかなければならない。
9. 印 刷・8月に比べると9月の状況は少し良くなった組合員が多かった。只、前年同月と比べるとコロナの影響で売上げ、収益とも良くない状況が続いているみたいである。その反面、雇用調整助成金及び政策融資のお陰で、資金繰りの状況が楽になったという声が上がっていたが、今まで定期的にコンスタントに受注があった案件がなくなったり、少しでも安くするため、仕様変更や数量変更などの要請がクライアントからあり、まだまだ自力で利益を出していける目処がたたない状況である。

## <窯業・土石製品>

10. 生 コ ン・9月は昨年同月と比較して約13%減少。特需工事が終了し新規工事の出荷もそれほど大口はなく、下半期にかけて出荷量が落ち込むことが懸念される。
11. 生 コ ン・9月の出荷数量は、対前年同月比7%減であった。要因としては、出荷数量が前年同時期と比較して、官民工事とも当初の計画通り出荷が進み且つ新規工事発注減が結果として数量の減少となっている。懸念事項としては、依然として運転手の高齢化と人材不足が深刻な問題であり、今後の緊迫した課題として対応が迫られている。

## <鉄鋼・金属>

12. 鉄 鋼・業況感に大きな変化はなく、概ね横ばい状況で推移している。設備操業度も回復傾向が見受けられ、生産活動は下げ止まりの動きとなっており、今後のゆるやかな回復が期待される。なお、依然として景気の先行き不透明感は拭えず、今後の動向が懸念される場所である。
13. ス テ ン レ ス・新型コロナウイルスへの感染予防対策を実施しながら、企業活動を展開している。国内状況については、大手を中心に徐々に回復傾向にあるが全体的には様子見の状況である。海外での営業活動については、現地での隔離免除措置等を利用して一部の地域への渡航を再開したが、現地における対応や帰国後の隔離措置など、コロナ禍以前と同様には進めることができず、苦勞している。

## <一般機器>

14. 機 械 金 属・新型コロナウイルスの感染者は、減少傾向にあるものの、依然としてその影響は継続しており、営業活動の停滞等により売上高や引合いなど、かなりの組合員に減少傾向が見られ、引き続き景況感の悪化が懸念される。加えて、熟練技術者をはじめ従業員の確保難、原材料価格その他の経費の増加なども、直面する経営上の課題として見受けられ、先行きの見通しが不透明で、将来に対する不安感が拭えない状況である。

## 【非製造業】

### <卸売業>

15. 食糧卸・業務用の消費減、供給過多。
16. 各種商品卸・新型コロナウイルス感染症の影響によるステイホームと猛暑のおかげで売上高は維持できた。（家電卸）

### <小売業>

17. ショッピングセンター・昨年9月の営業28店舗に対し、今年は20店舗だった。その20店舗のうち1ヵ月フルに営業したのは14店舗だけで、残りは途中で改装のため休業に入ったりしてフルに営業していない。そういった状況の中で9月の売上高の前年対比は全店計85.1%（既存店88.5%）、客数78.8%（既存店81.6%）だった。改装前は、9月中旬には改装の店舗が一斉にオープンする予定だったのだが、足並みが揃わず4店舗のみとなった。10月にも4店舗が営業再開できる予定だがバラバラになるだろう。客数78.8%（既存店81.6%）が示すように、営業店舗の減少により集客力が落ちているのは明白だ。規模は違うが、そごう撤退によるアミコの衰退と似たところがある。10月も9月と同じような状況が続くと思うが、11月の既存店のフル営業、また12月の大型店オープンに期待する。
18. 量小売業・リフォームの助成金の見積り分が少し実仕事として出てきた。他はほぼなし。経済対策がなければ大変な状況になっていたと思われる。
19. 機械器具・コロナの影響にて、自転車パーツの生産の遅れがかつてないレベルで悪化し始めている。これにより、販売の機会損失が来年に向けて発生しそうである。
20. 各種商品小売業・新型コロナウイルス感染拡大の影響がまだしばらくは続きそうな気配がある。
21. 電気機器・コロナ禍の影響か、先行きは不透明。（昨年の増税、駆け込み需要の反動減も影響か。）

### <商店街>

22. 徳島市・コロナの影響で週末だけ営業している店舗（旅行業）も未だにあるが、金曜夜の往来は前月より少し増えてきたように感じる。
23. 徳島市・コロナで減少に加え8月末にSOGO閉店でダブルの痛手。駅前には昔からの駐車場問題、SOGO閉店後の空き店舗問題で先が見えない。新町も同じく人出が悪い。（残暑のせいもあり）
24. 阿南市・コロナの影響が続き、客足減少。
25. 鳴門市・商店街のイベントは全て中止になっている。売り上げはみなさん厳しいようだ。家具業界は6月以降、前年よりいい店が多いようだ。

## <サービス業>

26. 土木建築業・徳島河川国道事務所の令和2年度の去年との比較については、河川は前年度に比べ、改修事業費が約85%になり、業務量も去年より少なくなったと思われる。道路は前年度に比べ新直轄費が85%と減になったが、一般道の事業費が新直轄の減額分増える。交通対策課は無電柱化事業が去年より3倍になり、インフラ（NTT、水道、電力、ガス等）の調整が大変になっている。道路管理課も去年に比べ、1.25倍の事業費（橋梁補修・耐震・補強）が多く発注され、忙しい。徳島事務所全体では、去年に比べ、20億増が予想され、忙しくなるのでは？コロナ対策で6月から、通常に在宅勤務を取り入れた変則シフトで、業務を進めているが、働き方改革との兼ね合いで、業務効率は落ちている。組合は契約人数12名のところ、16名の担当技術者を配置し、（一般かせ）発熱等の際、様子見の休暇が増えるので、増員し多少でも業務に支障の無いようにしている。9月の動向としては、工務課は新直轄の工事費は減となったが、業務自体は工事の分割発注等があり、件数としては去年と変わらない。一般改築工事が増えたため担当箇所（新直轄以外の一般道）により忙しくなったのでは？道路管理課は先月と同様、橋梁補修等が去年より多く発注するため、当該業務は忙しくしている。交通対策課は先月と同様、共同溝の整備事業が多く予定されているのでそれなりに忙しい。3課発注工事も、条件の良い工事は受注業者が入札に参加してくれるがちょっとでも条件に問題があれば、業者は入札に参加しないので不調になる。
27. 自動車販売整備業・登録車（普通車）の新車登録台数は対前年同月比-22.9%の1,546台、中古車は3.2%の513台、合計では-17.7%の2,059台であった。軽自動車の新車登録台数は対前年同月比-17.5%の1,383台、中古車-12.8%の410台、合計は-16.5%の1,793台である。登録車・軽自動車の登録台数合計は対前年同月比-17.1%の3,852台と減少。登録車の中古車販売台数以外はすべて前年度よりも減少。特に登録車の新車販売台数はマイナス22.9%と大きく減少した。全体では17.1%減。四国運輸局管内でも、登録自動車は11ヶ月連続の減、軽自動車は11ヶ月連続の減、全体としては11ヶ月連続の減少のようだ。依然としてコロナ禍で販売が低迷しているのか。収益情報の目安としている継続検査の台数は、登録自動車は、登録自動車はほぼ変わらず。軽自動車は2.7%のマイナスとなった。
28. 旅行業・Go Toキャンペーンなどが始まっているが大手とは違い、県内の中小の旅行会社にはあまりメリットもないようで相変わらず低迷状態のようだ。
29. 広告業・コロナで延期になっていた受注が動き出した。
30. ビル管理・近年、取引条件がほとんど変化しない中、最低賃金の引き上げが続いている。（H25年・666円→R2年・796円）。このような急激な最低賃金の引上げに伴う影響が徐々に現れてきている。更に、働き方改革への対応、労働需給の逼迫、先般成立した社会保険（厚生、健康）改革法の施行に向けての対応など多くの課題に包まれている状況だ。加えて、新型コロナウイルス感染症の拡大回避の影響が長期に及んでいるホテル分野のメンテナンス業務においては、経営や人材確保、業務遂行方法などについて影響があり、事業の縮小による減収や従業員の休業補償などが重い課題となってきている。また、病院や高齢者利用施設等においては、管理者と連携し、細心の注意の下で業務を遂行しているところだ。全体としてみると、9月分は前年同時期と比べ、新型コロナウイルスの影響のケースを除き、大きな変化はない。しかしながら今後、多様で深刻な影響が現れてくることも想定して事業活動に当たっているところだ。

## <建設業>

31. 建設業・公共工事は、地域的な格差があり（徳島地域、鳴門地域が少ない）一概に言えないが、全体で前年に比較して増加している。特に徳島県発注工事は8月是对前年比約18%増、累計で30数%増となっている。国土交通省徳島河川国道事務所の発注工事では、少し不調不落工事がある。
32. 電気工事業・新設住宅口数は194件であり、対前年比91.0%と減少した。
33. 板金工事業・9月は受注数及び見積件数は増えている。
34. 鉄骨・鉄筋工事業・若干操業度が低下している工場があるものの、今月も前月とほぼ変わらない。
35. 解体工事業・公共工事については、大規模、中規模の解体工事の発注もあり活況。民間戸建ての工事については、県内斑模様であるが工事発注についても例年並みの発注があり重機類の稼働率アップとなっている。業界としては近年、新規解体工事業者の参入についても増加傾向にある。

## <運輸業>

36. 貨物運送業・今月も新型コロナウイルスの影響及び4連休による実働日数の減少で、8月よりは若干持ち直したが依然として低調に推移。取扱品により異なるが前年より30~40%の減少となっている。軽油単価は、前月比1円弱の値下がりで、連続4ヵ月の値上りが止まった。
37. 貨物運送業・コロナウイルスによる売上への影響は大きく改善傾向はあるものの、元のように回復するには時間を要するとの声がある。一方長距離便は徳島発の荷物は徐々に回復しつつあるが、帰り荷の減少が続いているので、厳しい状況が続いているとのことである。